

SUPERBIKE
EXtra, EXpert and EXtreme
EXPRESS--

J-GP2 ハイレベルな戦いになりそうな予感
J-GP3 國峰琢磨が逃げる事ができるか!?

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE REPORT

2戦を終え高橋英倫と生形秀之が優勝1回、2位1回という成績でポイント上で並んで迎えたMOTEGI2&4RACE。J-GP2クラスは、4年目を迎えレベルの高いレースとなってきた。その中でも、マシンを熟成し、うまく仕上げてきた2人がここまで成績を残していると言えるだろう。今回のレースも、この2人がトップ争いに絡む可能性は高いと言える。

そんな中、ようやくマシンが仕上がってきた井筒仁康が、今回はポールポジションを獲得した。井筒は、今シーズン、ST600クラスとダブルエントリー。昨年のチャンピオンマシンでの参戦だけに、開幕戦からトップ争いを繰り広げられるかと思われた。しかし、開幕戦は、マシントラブルのために低迷。前回の筑波ラウンドでは、マシンは仕上がってきたが、トップを走りながらも転倒リタイアに終わる。そして鈴鹿8耐を戦い、翌週の今回のレースでポールポジションとベテランの底力を見せつけた。2番手の生形、3番手の野左根も僅差で続き、マシンの仕上がりがも上々だけにフロントロウの3台は、確実にトップ争いを繰り広げられるだろう。2列目に並ぶ浦本修充、高橋、デチャ・クライサー、3列目の長島哲太、岩田悟までが、上位に顔を出してきそうだ。

また、今回のレースでは、音量規制をMotoGPロードレース世界選手権のMoto2クラスと同等に引き上げる特別ルールが採用された。いつもとは違うエンジンサウンドが聴けるところにも注目して欲しい。

決勝は、レース序盤のペースによってトップグループの台数が決まってくるはずだ。その中で、

いかにタイヤマネジメントをするかが勝敗を分けることになるだろう。

POLE POSITION
INTERVIEW



1'54.684

#77 井筒仁康(写真中央) / RS-ITOH&ASIA

「今回の想定タイムは、全く考えていませんでした。鈴鹿8耐を走っているのでも、J-GP2マシンに乗り換えるとアクセルをどこまでも開けてもスライドしないので感覚を取り戻しながら走っていました。開幕戦はマシントラブルを抱えたままでしたが、前戦の筑波ラウンドからマシンが仕上がってきたのですが、決勝では、レース序盤でいなくなっていました。J-GP2クラス3レース目ですが、まだ、このクラスのライダーと一緒にレースができていないので、今回は、勝負したいですし、勝負できるマシンになっていると思います」

ポールポジション井筒仁康(中)、2番手生形秀之(右)、3番手野左根航太



ポイントリーダーの生形秀之にも注目だ



J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE REPORT

J-GP3クラスは、ここまで2戦を終え山田誓己が2連勝を飾り、暫定ランキング2番手の亀井雄大に15ポイント差をつけポイントリーダーにつけている。亀井は、今シーズンスポット参戦の予定となっており、今回のレースは参戦していない。このため実質は、暫定ランキング3番手の長尾健吾が山田に次ぐ2番手と言える。水野涼、小室旭、鳥羽海渡と2戦ともポイントを獲得しているライダーがランキング上位を占めている。これに國峰琢磨、徳留真紀、山本剛大、大久保光、宇井陽一と速さと実績のあるライダーが続くが、いずれも1戦のノーポイントレースがあり下位に沈んでいる。

今回も今シーズン、project u7C HARCに移籍し速さを見せている國峰が初日からセッションをリード。公式予選では、コースレコードをブレイクしポールポジションを獲得した。2番手には、賞典外でスポット参戦している尾野樹樹がつけた。尾野は、昨年に引き続き今年もアジア・ドリーム・カップに参戦し活躍しているが、一昨年には、Moto3クラスにも数戦参戦。再び世界を目指すためにMoto3仕様のマシンで参戦予定だったが、今回は間に合わず國峰と、ほぼ同じ仕様となっている。事前テストもなかったが、さすがの速さを見せている。一方、山田は、一発タイムでは、遅れを取っているが決勝での巻き返しを狙っている。昨年アジア・ドリーム・カップでチャンピオンを獲った大久保も尾野には、負けられないとライバル心を燃やしている。

速さは本物の國峰琢磨は決勝で結果を残したい



速さでは、國峰がイニシアチブを握っており、どんなペースで走るかによってレース展開が見えてくるはずだ。

POLE POSITION
INTERVIEW



1'59.732

#55 國峰琢磨(写真中央) / project u7C HARC

「練習では、2分00秒8しか出ていなかったのでも、レースウイークまでに走り方をよく考えてからサーキット入りしました。自己ベストが1分59秒2なので、それぐらいは出したかったですし、目標も59秒台中盤から前半でした。1分59秒7が出たときに、もっと攻められたのですが、集団の中で周りが気になってしまいタイムアップできませんでした。それでも59秒台に入っただけです。今年は、2戦ともミスをしていますし、なるべく多く取り戻したいので、レース展開を考えて走ろうと思っています」

#3山田誓己は決勝で巻き返して連勝を狙う



ライブ・インタビュー・レースダイジェスト・車載動画...ますます充実するインターネット動画!!

USTREAM YouTube MFJ Live CHANNEL 詳しくはファンサイトで <http://superbike.jp/>



BS12ch Twelliv(トゥエルビ)は全国無料放送!!

「MFJ全日本ロードレース選手権第5戦MOTEGI 2&4 RACE」をダイジェストで放映!

■放映日時 8月12日(月) 20:00~20:54